

2023年度 事業報告書

我が国の貴重な無形文化財である人形浄瑠璃文楽の保存及び普及を図るため、国、大阪府並びに国立文楽劇場及び国立劇場と密接な連携を図りながら、人形浄瑠璃文楽の伝承者の養成、研修発表、資料の収集・整理並びに管理運営業務を実施した。令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症が第2類から第5類に変更されたなか、引き続き感染症対策に注意を払いながら、人形浄瑠璃文楽の振興発展に努めた。

1. 公演事業

(1) 本公演（国立文楽劇場、国立劇場主催）

公演日数は、大阪・東京を併せて、132日となった。（大阪の8月公演中に新型コロナウイルス感染症の影響により4日間休演）

（ ）内は、前年度実績

公 演 地	期 間	日数・公演数	観 客 数
大 阪 (国立文楽劇場)	4/8～4/30	22日 66回	19,519人
	7/22～8/13	18日 54回	15,790人
	11/4～11/26	22日 66回	16,601人
	(2024) 1/3～1/22	19日 57回	17,185人
計		81日 243回 (85日 255回)	69,095人 (60,392人)
東 京 (国立劇場)	5/11～5/30	19日 57回	20,397人
	8/31～9/24	23日 69回	29,707人
	(2024) 2/5～13	9日 27回	10,013人
計		51日 153回 (51日 153回)	60,117人 (49,095人)
合 計		132日 405回 (136日 408回)	129,212人 (109,487)

(2) 地方公演（文楽協会主催）

地方公演は、本公演がない秋季及び春季に全国各地を巡演し、各地の文楽愛好家の期待に応えるとともに、新規顧客の開拓に取り組む事業である。2023年度は、前年度に引き続き15会場での公演となった。

()内は、前年度実績

公 演 地	期 間	日数・公演数	観 客 数
広島、名古屋、知立、 静岡、富山、所沢、神奈 川、仙台	10/4～10/17	8日 16回 (8日 16回)	6,919人 (5,322人)
京都、戸畑、尼崎、姫路、 高崎、府中、久居	(2024) 3/1～3/17	8日 16回 (8日 16回)	5,433人 (5,211人)
合 計		16日 32回 (16日 32回)	12,352人 (10,533人)

(3) 特別公演事業

特別公演事業については、昨年新型コロナの影響を受けて中止した8月の内子座文楽公演および年間200日程度公演しているギオンコーナーもほぼ予定通り実施できた。

また、「文楽キャラバン公演」等、新たな切り口での文楽公演にチャレンジし、文楽初心者やインバウンドの方々に文楽に接してもらう機会を創出した。

・主な特別公演事業

公 演 名	期 間	日数・公演数	観 客 数
長門文楽	7/2	1日 1回	389人
岡崎文楽	7/6	1日 1回	543人
内子座文楽	8/19～20	2日 4回	1,471人
中之島文楽	10/13～14	2日 2回	1,271人
文楽キャラバン公演	1/26・2/1	2日 5回	480人
人形浄瑠璃せとだ文楽	3/10	1日 1回	545人
はじめての文楽公演	3/23	1日 1回	591人
合 計		10日 15回	5,290人

2. 伝承者養成事業

技芸の伝承・向上を目的として、師匠・弟子間の研修・指導等に重点をおいた取り組みを推進し、技芸員84名のうち指導する側31名に講師等指導者謝金を、指導を受ける側の53名に研修（修業）手当を支給した。

(1) 契約技芸員（令和6年3月31日現在）

契約技芸員数	太夫	三味線	人形
84名	21名	22名	41名

(2) 若手技芸員の勉強会等の実施

若手技芸員の實力向上を図るため、師匠・弟子間の指導、稽古を重視して推進するとともに、基礎的な演技力の伸長を目途に、国立文楽劇場及び国立劇場と連携して錬成・発表の場を設けた。

- ・若手技芸員が自発的に取り組む、若手技芸員公演「若手会」(6月)・「^{ふくじゅ}蝠聚会」(8月)・「若手素浄瑠璃の会」(3月)を実施した。
- ・国立文楽劇場及び国立劇場の主催で若手技芸員を登用して公演される「文楽鑑賞教室(6月・大阪)(12月・東京)」が開催され、日頃の修行の成果を発表し、有為な文楽技芸伝承者の養成に努めた。
- ・文楽研究生3名については、文楽技芸の研修について支援を実施した。
- ・若手技芸員の現地研修として府民、市民や学生を対象とした初心者向けの「文楽ミニ公演」を計3会場で実施するなど、若手技芸員の発表、自己研鑽の場を拡げた。

なお、令和5年度の主な若手技芸員勉強会等の実施結果は、次のとおりである。

① 若手会

劇場名	実施時期	実施回数
大阪（国立文楽小劇場）	6月	1日（1回）

② 蝠聚会

劇場名	実施時期	実施回数
大阪（国立文楽小劇場）	8月	1日（1回）

③ 若手素浄瑠璃の会

劇場名	実施時期	実施回数
大阪（国立文楽小劇場）	3月	1日（1回）

④ 文楽鑑賞教室

劇場名	実施時期	実施結果
大阪（国立文楽劇場）	6月	14日（28回）
東京（国立劇場）	12月	10日（20回）
計		24日（48回）

⑤ 文楽ミニ公演

会場名	実施時期	実施回数
アプラホール（高石市）	10月	1日（2回）
メイプルホール（箕面市）	12月	1日（2回）
国立文楽小劇場（大阪市）	2月	1日（2回）

(3) 文楽協会賞表彰 3名

1年間真摯に舞台を務め、技芸の向上が著しい若手技芸員に対し、例年通り文楽協会賞を贈った。

（太夫）竹本小住太夫、（三味線）鶴澤清公、（人形）桐竹勘次郎

3. 普及啓発事業

(1) 文楽を中心とした古典芸能振興事業（大阪市）

「文楽を中心とした古典芸能振興事業実行委員会」（構成：大阪市、文楽協会）が実施する各種事業に協力した。

- ・「中之島文楽」、「文楽キャラバン」「みて きて ぶんらくのおはなし」の公演事業
- ・「ツーリズム EXPO ジャパン 2023」での文楽デモンストレーション
- ・フリーペーパー「人形浄瑠璃 文楽の世界」の制作

(2) ワンコインで文楽(11月・初春公演期間中)

コクヨ様のご支援により、若年層(15歳~35歳)をターゲットとしたワンコイン文楽を実施し、598名を動員することができた(公益財団法人関西・大阪21世紀協会/アーツサポート関西文楽支援寄金)。

4. 運営

(1) 評議員会の開催 6月22日

決議事項: 2022年度事業報告について

2022年度計算書類について

理事の選任について

監事の選任について

評議員の選任について

報告事項: 新型コロナウイルスの影響について

(2) 理事会

・第1回理事会 5月26日

決議事項: 2022年度事業報告について

2022年度計算書類について

評議員会の招集について

報告事項: 理事長の職務執行状況報告について

賛助会員の入会依頼活動状況について

・第2回理事会 3月15日

決議事項: 2024年度事業計画について

2024年度収支予算について

文楽基金の一部取り崩しについて

2024年度国庫補助事業実施決議について

運営資金の短期借入れ並びに担保の提供について

事務局人事

報告事項：岸本忠三文楽支援基金取崩し見込み額について

理事長の職務執行状況報告について

公益財団法人文楽協会賛助会員の入会状況について

(3) 賛助会員制度の実施状況

文楽協会の安定した財政運営の一助となるよう、当会の事業趣旨に賛同いただく個人、法人から幅広く支援を募る「公益財団法人文楽協会賛助会員制度」は、2024年3月末現在、個人会員258人（1,564口、469万円）、法人会員22社（330口、1,650万円）。また、それ以外に寄付（個人：18名・1781万円、法人：3社・324万円）を頂戴している。

【 附属明細書 】

事業報告書に詳細まで記載しているため、記載する事項はありません。